


イノベーションとレジリエンスに向けて

# デジタル プロジェクト デリバリーで 交通インフラを変革

 **AUTODESK**







# 目次

- 01** 老朽化するインフラへの新たなアプローチの必要性
  - ・今日の土木エンジニアリング企業が直面する課題
- 02** 進むべき道としてのデジタル プロジェクト デリバリー
  - ・デジタル プロジェクト デリバリーがもたらす機会
- 03** デジタル プロジェクト デリバリーにおける標準化されたプロセスの重要性
  - ・クラウドベースのコラボレーションによる標準の設定と達成
  - ・アルプスでのトンネル鉄道の成功をデジタル プロジェクト デリバリーで実現
- 04** 信頼できるツールへの依拠とパートナーシップの活用

- 05** 業界パートナーシップによるデジタル化への取り組み
- 06** 持続可能性と AI による未来への投資
  - ・AI による持続可能な未来
  - ・AI が交通ビジネスを支援する方法
  - ・AI 時代における信頼と透明性
- 07** デジタル ジャーニーの次なるステップ
  - ・お問い合わせ



高度なデジタル ツールで、より多くの交通プロジェクトを計画・実現

交通ネットワークは社会の基盤であり、世界中で物資、経済、サービス、人々の移動を支える中心的存在です。

年々、交通業界は建築、エンジニアリング、建設、運用（AECO）業界の中で最大かつ最も成長の早い分野となっています。<sup>1</sup>

道路、鉄道、橋梁、トンネル、空港が、かつてないスピードで建設されています。世界の交通インフラ建設への支出は、2025 年には 3.5 兆米ドルに達すると予測されています。<sup>2</sup> その投資の大部分は、経済を活性化するだけでなく、気候変動の緩和という責務を果たすことにも関心を寄せている地方、地域、そして国家レベルの政府によって行われています。

この支出に伴う交通プロジェクトの大幅な増加への対応は、現代の交通関連組織にとって大きな課題となります。しかし同時に、国や地域の経済における成長の成功に向けた大きなチャンスでもあります。

本 eブックでは、柔軟かつ安全な交通エンジニアリング ソフトウェア ソリューションが、効率的で革新的、強靱かつ持続可能な交通インフラの実現をいかに支援できるかをご紹介します。これにより、経済成長を後押しし、イノベーションを促進し、交通関連の事業や人材、さらには業界全体に、未来に備えたスキルを備えることが可能となります。

世界各国の政府投資



\* 1 GlobalData  
2 \* 2 The Business Research Company



# 老朽化するインフラへの 新たなアプローチの必要性

業界を牽引する団体である米国土木学会（ASCE）が 2025 年に発表した最新の報告書では、米国におけるインフラの現状が示されています。老朽化したインフラシステムは、自然災害や異常気象によるリスクの増大に直面しており、公共の安全や経済に深刻な脅威をもたらしています。<sup>3</sup>

主要なパフォーマンス指標に関するデータが不十分または入手できない状況が、特定のインフラ分野に引き続き影響を与えています。さらに、多くのインフラ分野では資産の基本的な台帳すら欠いており、そのため資産管理の実践が困難になっています。

この状況を改善するには、道路や鉄道から空港、橋梁、トンネルに至るまで、あらゆる交通インフラへの継続的な政府投資が不可欠です。しかし、それだけでは十分ではありません。必要とされているのは、地域の拡大や利用動向を考慮しながら新しい技術や働き方を導入し、経済成長への道を開き、新しい計画やプロジェクト設計を最大限に活用しようとする姿勢です。

交通による CO<sub>2</sub> の  
気候への影響:

交通は、世界の温室効果ガス  
排出量の 17% を占めています





## 今日の土木エンジニアリング企業が直面する課題

### データ



企業はデータ量の大幅な増加に直面しています。そのデータはさまざまなソフトウェア ツールに分散しており、**73% のプロジェクト チームが日常的に 6 種類以上のソフトウェア ツールを使用しています**。FMI の報告<sup>4</sup>によると、最大規模のインフラ プロジェクトでは、平均して 1 億件以上のメール、5,000 万件の文書、1,000 万件のワークフローが必要とされています。

多くの企業はこれほど膨大な情報を処理できず、取得されたデータの 95.5% が現在は未活用のままとなっており、非効率や手戻りの原因となっています。適切なツールを用いてデータの価値を引き出すことは、より容易で効率的なコラボレーション、そして交通インフラ プロジェクトの成功へとつながる重要なステップです。

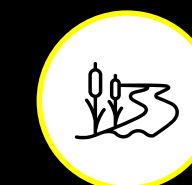
### 老朽化するインフラ



世界中で新たなインフラ整備の緊急性が高まっています。世界の交通インフラには、2040 年までに 50 兆米ドルの投資が必要とされています。<sup>5</sup> 米国だけでも、高速道路や主要道路の 5 マイルごとに 1 マイルが劣悪な状態にあり、さらに 45,000 本の橋梁が同様の状態にあります。

過去 1 年間に投資が増加したにもかかわらず、同国のインフラは ASCE の「インフラストラクチャ レポート カード」で総合評価 C にとどまりました。今求められているのは、データを活用することで全体的な改善を加速させる好機を逃さず活かすことです。

### 気候への懸念



世界各国の政府は、経済をより持続可能で気候変動に強靱なものとするために、インフラへの投資が不可欠であることを認識しています。世界中の先進市場および新興市場の両方で、すでに制定されている法制度（米国の IIJA や IRA、インドの NIP、EU の RRF や TEN-T など）が、このような投資を後押しすることになっています。

世界が 2050 年の**国連のネット ゼロ目標を達成するためには、今後 10 年の終わりまでに各分野で毎年数兆ドル規模の投資が必要となります**。<sup>6</sup> したがって、電気充電を組み込んだ新たな交通インフラ ソリューションを開発する機会是非常に大きいのです。

<sup>4</sup> 「ビッグデータ: E&C 業界における大きな問い」

<sup>5</sup> 欧州投資銀行 - 「インフラ ソリューション: 持続可能な未来に向けて交通を適応させる方法」

<sup>6</sup> 国際エネルギー機関 - 「2050 年までのネット ゼロ」



### 義務化とオープン スタンダード



強靱で持続可能な交通インフラへの世界的な投資が加速する中、世界各国の政府は BIM の活用を義務化しています。これにより、標準化された情報管理（ISO 19650）やオープン スタンダード（IFC、BCF）の採用を通じてデータのサイロ化が解消され、資産ライフサイクル全体にわたって、保守や運用のためにモデルを効率的に活用できるようになっています。

交通インフラのオーナーやステークホルダーは、これらの要件に対応し、標準を実装し、プロジェクトにおける BIM の利点を最大限に活用するために、デジタルプロジェクト デリバリーにますます注目しています。

### 複雑なプロジェクト



交通プロジェクトには多額の予算、複雑な設計、コラボレーションや透明性の確保、そしてすでに収集されている膨大なデータを活用する方法が求められます。

さらに、こうした重要インフラが建設または更新される際に、日常的にこれらのシステムを利用し、不便を強いられる一般市民への配慮も不可欠です。

### 熟練労働者の不足

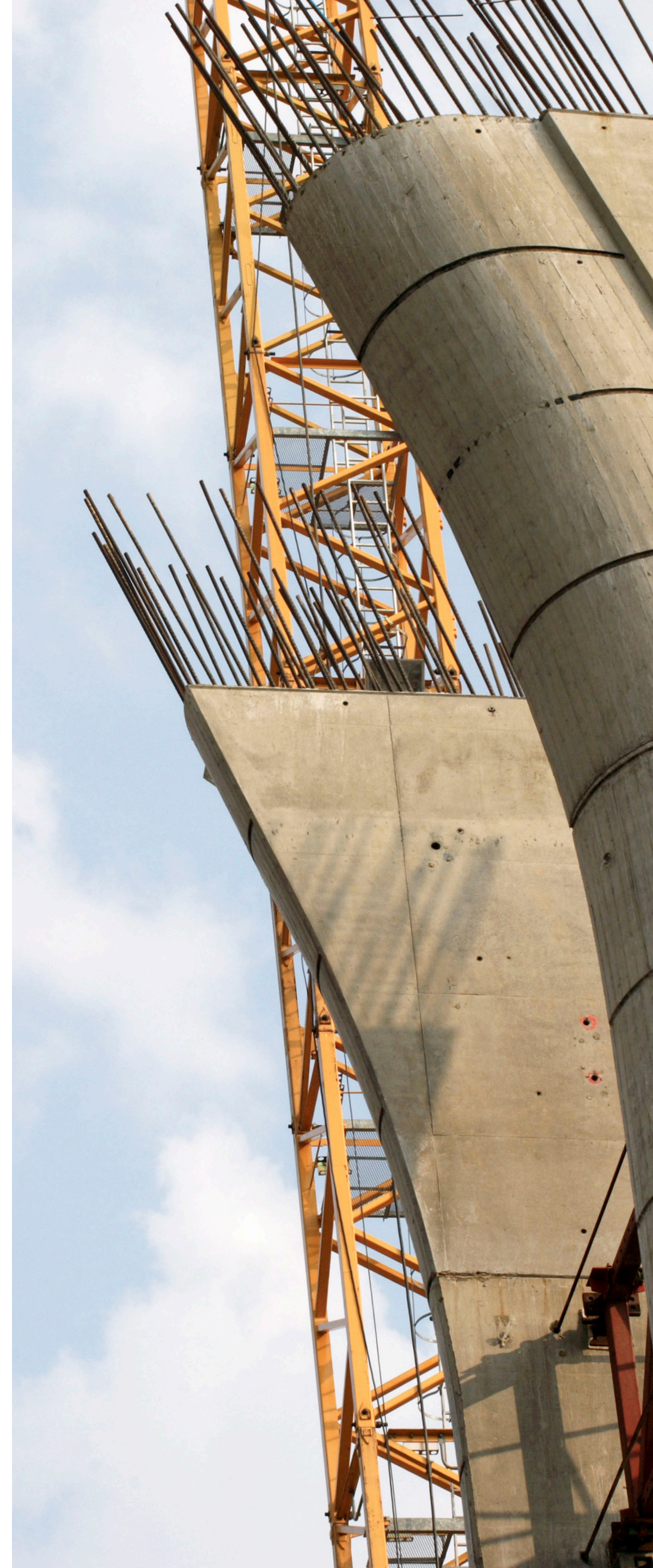


新たな交通インフラを実現するには熟練した人材が必要ですが、ヨーロッパと北米では建設労働者の 20% 以上が 55 歳を超えています。<sup>7</sup> 引退者の数が、この分野に新しく参入する人材を上回る状況となっています。

世界経済フォーラムが発表した「雇用の未来レポート 2025」<sup>8</sup>によると、現在の労働現場におけるスキルの 39% が 2030 年までに陳腐化し、建設業は最も混乱のリスクが高い産業の 1 つであることが明らかになりました。高度なデジタルツールは、これらの課題に対処し、それを新たな機会へと変える手助けとなります。

\*7 「AECO 業界における雇用の未来レポート: デジタル化と人材の現実」

\*8 世界経済フォーラム - 「雇用の未来レポート 2025」





# 進むべき道としての デジタル プロジェクト デリバリー

建築、エンジニアリング、建設業界の企業にとって、デジタル ツールの統合は、機会を最大化し、より持続可能で強靱な交通インフラを実現するために不可欠です。

**道路、鉄道、その他関連インフラの建設は極めて複雑な事業です。**交通インフラ プロジェクトには、既存の交通システムへの影響や中断を最小限に抑えるための綿密な計画が必要であり、同時にあらゆる段階で発生する課題や変更に対応できることが求められます。

たとえば、鉄道プロジェクトでは、初期の実現可能性調査から完全な運用資産に至るまで、多くの分野にわたる調整が必要となります。

多くの場合、共同作業者はプロジェクト ライフサイクル全体を通じてサイロ化された状態で作

業しています。ファイル同士が連携しなければ、一方の設計はもう一方に反映されません。その結果、干渉、手戻り、データ損失が積み重なり、コスト超過やプロジェクトの遅延につながってしまいます。

“

**コミュニケーション、ビジュアライゼーション、そして安全性は、この業界がイノベーションとデジタル化を推進する上で重要な要素です。デジタル プロジェクト デリバリーでは、これらの要素をすべてひとつに統合できます。**

”

ペンシルベニア州運輸局 エンジニアリング自動化・サービス部長/Kelly M. Barber 氏





## 2 | デジタル プロジェクト デリバリー

デジタル プロジェクト デリバリーは、このようなエラーを減らし、あらゆる種類および規模の交通インフラ プロジェクトにおけるビジネス成果を向上させることができます。

### • コミュニケーションとコラボレーションの強化:

相互運用性により分野横断的なコラボレーションが促進され、納期短縮、チームの生産性やデータ交換の向上につながります。さらに、現場での変更依頼も削減されます。

### • より高品質な設計と効率的な設計プロセス:

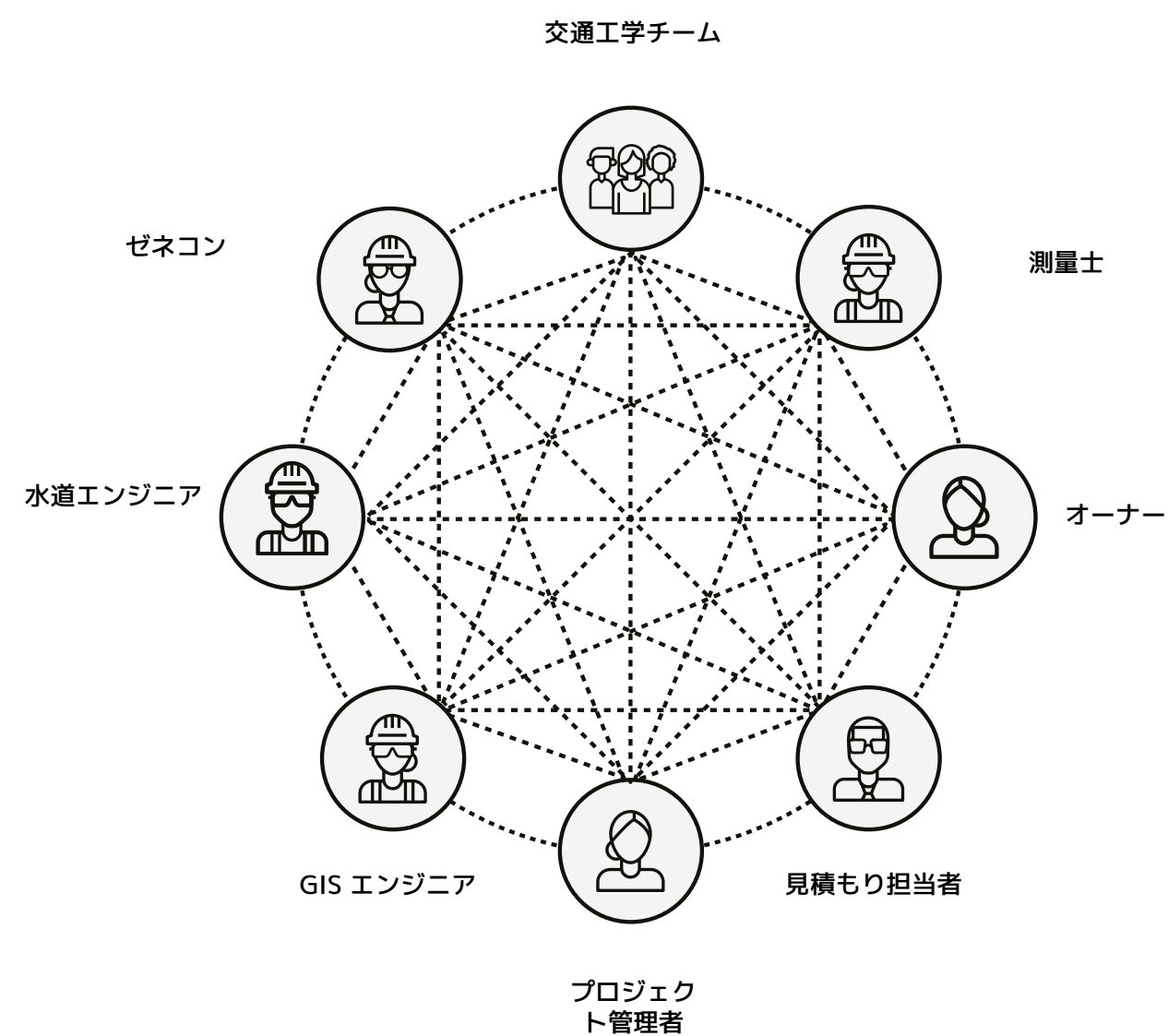
ビジネスをデジタルに変革することで、プロジェクトのライフサイクル全体を通じて設計プロセスが効率化され、長期的に価値を持つ交通インフラ資産を提供できるようになります。

### • 競争力を維持し、より多くの仕事を獲得する:

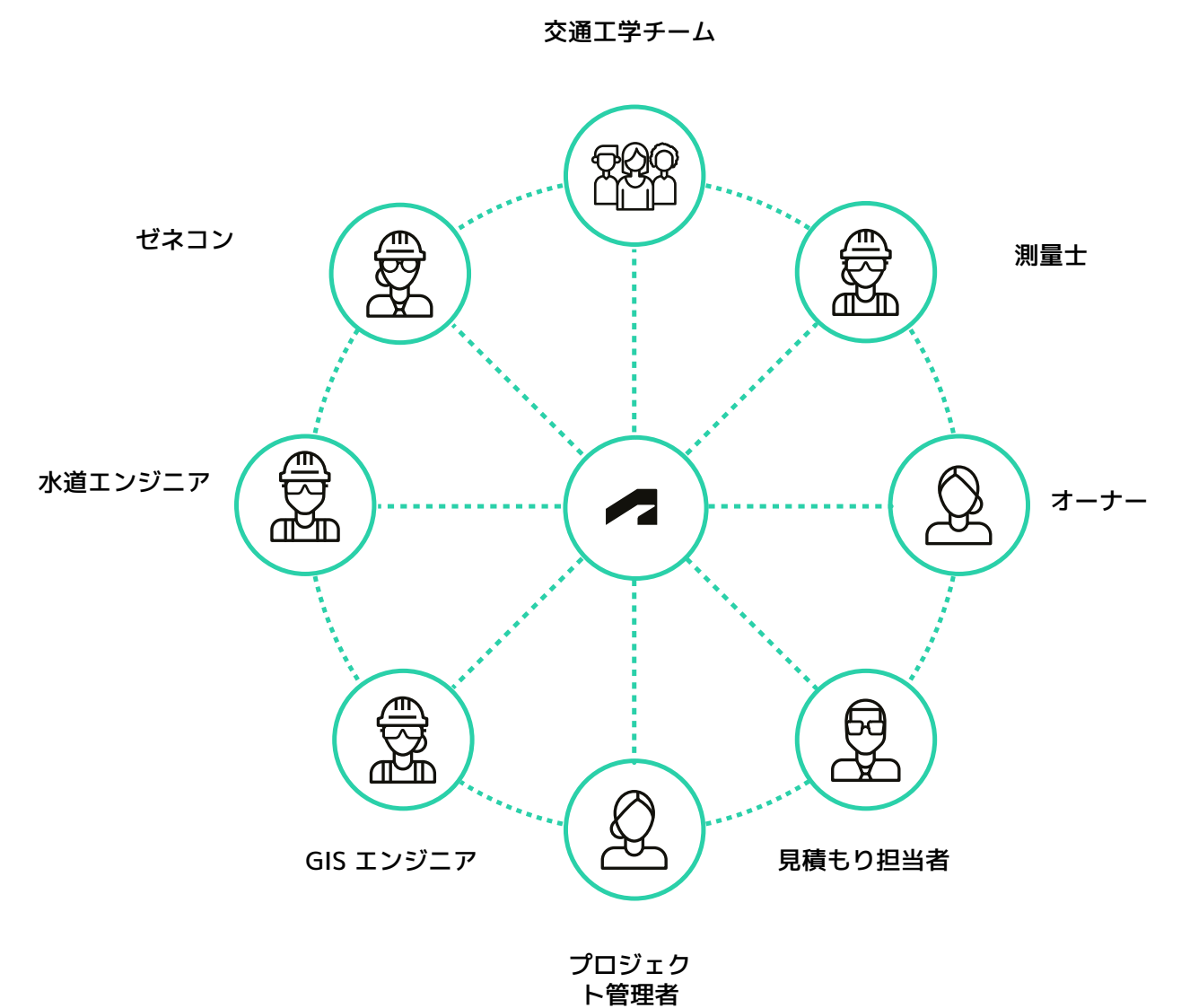
設計品質を高め、プロジェクトをより効率的に遂行することで、効果的な意思決定を促進し、チームや関係者への情報共有を確実にし、最終的にはより多くのビジネス獲得につながります。

## 共通データ環境（CDE）の価値の視覚的表現

### 従来型



### 共通データ環境（CDE）

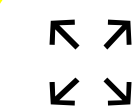




### デジタル プロジェクト デリバリーがもたらす機会

デジタル プロジェクト デリバリーのツールを活用することで、企業は BIM の義務化やオーナーの要求に対応し、収益性の高い政府のインフラプロジェクトを含む、より多くの案件を獲得できます。BIM 分野のリーダーであるオートデスクは、より優れた働き方と成果の実現を目指す交通関連企業にとって、最適な技術パートナーです。

デジタル プロジェクト デリバリーは、チームのコラボレーションを強化し、業務効率の向上、意思決定とプロジェクト成果の最適化を実現し、組織を未来に備えた体制へと導きます。



#### ビジネスの成長

オーナーの要件を満たし、競争力を維持し、収益性の高い政府の交通インフラ プロジェクトを獲得します。



#### 品質の向上

より優れた設計を実現し、手戻りを削減します。



#### より良い意思決定

すべての関係者と関連データをリアルタイムで考慮し、意思決定を最適化します。



#### 運用効率

異なる分野間の相互運用性を通じてコミュニケーションとコラボレーションを改善し、時間とコストを削減します。



#### リスク管理の向上

設計やプロジェクトの複雑さを、優れたコミュニケーションとクラウド コラボレーションに基づく信頼できる一元的な情報ソースによって管理します。



#### 将来を見据えた人材

デジタル社会において強靱な交通システムを運営および維持できる、自信ある人材プールの構築を支援します。



# デジタル プロジェクト デリバリーに おける標準化されたプロセスの重要性

交通インフラ プロジェクトの極めて複雑かつ大規模な性質から、今日の道路や鉄道建設プロジェクトがツール、人、プロセスの連携によって生み出す膨大な情報を管理するためには、効果的に構築されたアプローチが不可欠です。また、すべての関係者にプロジェクトの進捗を常に最新の状態で共有することも求められます。

ISO 19650 は BIM 標準の進化における画期的な指標であり、デジタル プロジェクト デリバリーの特徴である複雑で相互に関連するデータ フローを体系化するための標準化された枠組みを提供します。その目的は、関わるすべての人が自らの責任とタスクのタイミングを理解することで、リスクを軽減し、プロジェクトの成功を高めることにあります。

ISO 19650 は、世界的に交通エンジニアやオーナーによって徐々に採用が進んでおり、特にヨーロッパと北米で広がりを見せています。

ISO 19650 などの標準には、次のような利点があります。

- **プロジェクト成果の向上:**  
データが体系化され、品質確認が行われることで、プロジェクト ライフサイクル全体を通じてより信頼性の高い情報が得られます。
- **自信とセキュリティの向上:**  
各チーム メンバーが自分の役割と責任を明確に把握できます。
- **効率的な情報管理:**  
情報が一元管理されることで、データへのアクセスや利用が効率化されます。
- **一貫性と明確さ:**  
ファイルが明確に識別され、適切に使用されます。

政府による標準化されたプロセスの要求が増える中、より多くの交通関連企業もそれらを推進しています。

“

組織が ISO 19650 のプロトコルに従っている場合、プロジェクトに関わるすべての人は、アクセスするデータが適切であり、使用目的を示すよう体系化されていることに自信を持つことができます。

”

オートデスク 業界アソシエイト戦略責任者/Marek Suchocki





スペインでは、契約に BIM 計画が施行され、公共入札に BIM 要件を含めることが義務化されました。これにより、政府は公共機関に対して、自らの仕様に BIM 要件を含めることを義務化しています。



AECOM 社 交通プロジェクト リード/  
Sergio Alemany 氏

## クラウドベースのコラボレーションによる標準の設定と達成

BIM の義務化は、交通インフラ プロジェクトのデジタル化における転換点となっています。オートデスクは数十年にわたり、BIM を通じて、ソフトウェアの相互運用性とプロジェクトチームのコラボレーションを強化するために、オープン スタンドアードを積極的に採用し、よりオープンな働き方を推進してきました。1 つのプロジェクトに数百人が関わり、さまざまなチームや業界ソリューションが関与する場合、成功のためにはコラボレーション、相互運用性、セキュリティの向上が不可欠です。

オートデスクは、業界標準への取り組みとオープン プラットフォームである Autodesk Construction Cloud (ACC) に加え、長年にわたる主要業界との戦略的提携やパートナーシップの推進を組み合わせることで、標準化されたプロセスを支援し、連携されたワークフローを構築し、デジタル プロジェクト デリバリーの利点を最大限に引き出しています。

ACC は、データおよび文書管理のための一元化されたプラットフォームを提供することで、ISO 19650 の導入を支援します。その利点は次のとおりです。

- **簡素化された設定:**  
オープン プラットフォームにより、ISO 19650 標準に準拠したプロジェクトの設定が容易になり、ユーザーがデジタル プロジェクト デリバリー プロセスを導入する際の複雑さが軽減されます。
- **高品質なワークフロー:**  
プロジェクト参加者は自分の役割を迅速に理解でき、情報が効果的に計画および管理されます。
- **一元化されたデータ アクセス:** 関係者は必要な情報にアクセスでき、コラボレーションが強化され、エラーのリスクが低減します。
- **自動化されたチェックと承認:** データは正しく命名され、アップロードされ、使用が承認されます。



**ISO 19650 の採用と Autodesk Construction Cloud (ACC) を共通データ環境 (CDE) として導入したことで、異なる設計センターやリソース間でのコラボレーションが可能になりました。その結果、生産性が実際に 40% 向上しました。**



Kathib & Alami 社 デリバリー部門シニア マネージャー/  
Imad Sabonji 氏

最新のデジタル プロジェクト デリバリー標準を採用し、クラウド上で異なる分野が協働できるようにする交通インフラ プロジェクトは、より効率的で生産性が高くなり、主要な道路や鉄道の建設および運用に内在する複雑性に透明性をもたらします。



## アルプスでのトンネル鉄道の成功 をデジタル プロジェクト デリバ リーで実現

全長 270km のモン・スニ基底トンネルは、フランスとイタリアを結ぶ画期的なプロジェクトの中心に位置しています。

その複雑な地質条件には高度な建設技術が求められます。Autodesk Construction Cloud と高度な BIM ツールを活用することで、プロジェクト チームはシームレスなデータ統合とデジタル コラボレーションを実現しています。

これらの最先端ソリューションにより、実際の施工開始前に仮想建設や積極的な課題解決が可能となり、施工の正確性と長期的な維持管理の効率性が確保されます。

ストーリーを読む



**BIM とは、事前に仮想的に建物を構築することを意味します。現場で発生する課題は、仮想フェーズの段階で予測されます。**



Consortium CO 6-7 BIM マネージャー/Michele Positano 氏





# 信頼できるツールと パートナーシップの活用

交通プロジェクトは非常に複雑であり、プロジェクト チームにはさまざまなソリューションが求められます。オートデスクはすでに幅広いポートフォリオの中で多くのソリューションを統合しており、さらに相互運用性への投資や業界パートナーとの提携を通じて、交通インフラプロジェクトに対応する包括的なツールセットを提供しています。

オートデスクのソリューションは、安全な共通データ環境（CDE）を通じてデジタル プロジェクト デリバリー プロセスを実現します。これにより、関係者は必要な最新情報に基づく適切なインサイトにアクセスでき、新たな水平および垂直設計の機能を活用して、プロジェクトを迅速に推進することが可能になります。

“

時には何百人ものチーム メンバーからなるプロジェクトもあるため、全員が信頼できる一元的な情報ソースにアクセスし、ほぼリアルタイムで適切にコラボレーションできるような仕組みが必要なのです。

サーバーや IT、接続性の課題に依存して、必要なときに正しいファイルを見つけられないような事態は避けなくてはなりません。

”

Kathib & Alami 社 デリバリー部門シニア マネージャー/Imad Sabonji 氏

“

日々のプロジェクトで、多くのオートデスク製品を定期的に使用しています。それらを使う理由は、他でもなく長年利用してきた実績があるからです。クライアントにとっても馴染みがあり、社員も使い慣れているので、私たちが求めるソリューションを提供してくれるのです。

”

AECOM 社 交通プロジェクト リード/Sergio Alemany 氏



# 業界パートナーシップによる デジタル化への取り組み

交通インフラ プロジェクトがますます複雑化するのと同様に、設計、建設、運用プロセスのあらゆる側面を網羅するために必要とされるソリューションも複雑化しています。

オートデスクのオープン プラットフォームと業界パートナーシップを活用することで、エンジニアリング企業は社会、自然、環境の文脈を踏まえて計画、設計を行うことができます。



## 連携と相互運用性: BIM と GIS

**オートデスクと Esri の戦略的提携**は業界初の取り組みです。これにより、プランナー、エンジニアリング企業、建設業者、オーナーは、**プロジェクト ライフサイクル全体にわたってチーム、ワークフロー、データをつなげ**、自然環境と人工環境を統合することが可能になります。

相互運用可能なプラットフォームは、チームが新しいインフラや既存資産を構想、設計、構築、管理することを支援し、よりの確な意思決定、スマートなワークフロー、そして強靱な未来を実現します。



## 効率向上ツール: サブサーフェス データ解析

**Fugro とのパートナーシップにより、Autodesk Civil 3D ソフトウェア用の GeoDin® Ground プラグインがリリースされました。**

GeoDin® は、建設プロセスで収集されるさまざまなサブサーフェス データを統合する、包括的な地質工学データ管理ソフトウェアです。この統合は、顧客に最も有用なデータを提供し、資産開発の精度と効率を高めるための次なる大きなステップとなります。



## 気候への配慮: 炭素評価を 組み込んだ道路設計

**ORIS とのパートナーシップにより、Civil 3D に炭素評価と排出量モデリング機能が組み込まれました。**

ORIS の認定計算ツールは、プロセスを効率化し、包括的な影響評価を提供するとともに、道路設計におけるエンボディド カーボン排出量を定量化します。



# 持続可能性と AI による未来への投資

オートデスクの 2025 年度版『デザインと創造の業界動向調査』レポートによると、デジタルトランスフォーメーションの取り組みは圧倒的に前向きな影響をもたらしており、持続可能性は「負担」から「収益性」へと移行しつつあります。

デジタル成熟度の高い土木エンジニアリング企業のうち、73% が予期せぬ変化に十分対応できる体制を整えており、35% が自社の内部データを活用して競争力を高めています。一方、デジタル成熟度の低い企業では、その割合は 52% と 27% にとどまっています。

次の変革の波は、AI を日常的なワークフローに取り入れることにあります。これにより、交通エンジニアは今日の課題を解決するための余力を高めることができます。同レポートによると、デジタル成熟度の高い土木エンジニアリング企業のリーダーの 75% が AI への投資を増やすと回答して

おり、これは成熟度の低い企業の 65% と比べて高い割合となっています。言い換えれば、最近の AI をめぐる熱狂は、急速に現実のものとなりつつあるのです。

これらの数値は、より多くのデジタルワークフローを採用することで市場に新たな機会が生まれるため、企業は従業員が一層スマートに協働し、あらゆる意思決定に自信を持つことが必要であることを示しています。

たとえば、グローバルな設計、エンジニアリング、コンサルティング企業である Arcadis は、最近のプロジェクトにおいてオートデスクの施工管理ソフトウェアを活用し、オハイオ州有料道路およびインフラ委員会向けに 20 ヶ所の料金所を近代化しました。Arcadis は Autodesk Construction Cloud と Autodesk Build を活用してコミュニケーションとコラボレーションを一元化し、このプロジェクトのカーボン排出量を 50 トン削減することに成功しました。

“

大容量のファイルを添付したメールを送信したり、作業現場に出向いたりする必要がなくなったことで、その分のカーボン排出量を削減することができました。

”

Arcadis 社 シニア プロジェクト マネージャ/  
Ann Blanchard 氏



## AI による持続可能な未来

WEF の「雇用の未来レポート 2025」では、AI、クラウド コンピューティング、ビッグデータを、全産業における最も変革的なトレンドとして取り上げています。AECO 分野を再構築している 4 つの主要なデジタルトレンドは次のとおりです。

### 1.AI によるプロジェクト管理

### 2.デジタル ツインとリアルタイム分析

### 3.現場における自動化とロボティクス

### 4.IoT 対応のスマート現場

オートデスクは 2000 年代初頭から AI の研究開発に投資しており、交通分野の意思決定者がこれらの機会を最大限に活用し、持続可能性要件に対応するとともに、プロジェクトの精度、納期、コスト効率を改善できるよう支援しています。

## AI が交通ビジネスを支援する方法

交通業界は、データと連携したワークフローを活用してビジネスの機会やインサイトを生み出すことで、将来への備えを強化し、より強靱になります。標準化されたプロセスを導入することで、データを最大限に活用でき、デジタル ツインの提供、AI によるプロセスの拡張と自動化、さらにはデータ分析による利益率や受注率の向上が可能になります。

- **プロセスに AI を活用して拡張および自動化** することで、反復的なワークフローを削減し、生産性を飛躍的に向上させ、人材の能力を最大限に引き出します。
- **予測分析を実行** して先を見通し、市場のニーズや変動に自社の事業を適応させます。
- **データを分析** してより深いインサイトを得ることで、事業の健全性を十分に理解し、利益率の向上、新規案件の獲得、そして新しい提供価値の革新につなげます。
- **クラウドや連携された建設プラットフォーム** を活用し、ワークフローの効率化、持続可能性の向上、そしてインフラにおける高度なリスク評価を実現します。



私たちはすでにすべての情報をクラウドに保存しています。過去のデータからより多くのインサイトを得て、パターンを見出し、以前のプロジェクトで発生した課題や出来事から、新しいプロジェクトの改善点を見つけることは非常に重要です。



Kathib & Alami 社 デリバリー部門シニア マネージャー/Imad Sabonji 氏



## AI 時代における信頼と透明性

オートデスクは、AI 政策の策定と推進に向けて政策立案者と協力しています。米国では、国立標準技術研究所（NIST）が運営する AI Safety Institute Consortium（AISIC）のメンバーとして、オートデスクは複数の産業にわたる AI 安全基準とガイドラインの確立に取り組む強力な連合の一員となっています。またオートデスクは、EU の AI 協定に署名した最初の企業グループの一員でもあり、EU における AI 規制に準拠するために積極的かつ自主的な取り組みを行っています。

交通分野の意思決定者にとって、AI と持続可能性へのオートデスクの投資は、現代のインフラ開発における課題に取り組むための重要な次の一歩です。AI と持続可能な取り組みを活用することで、オートデスクは強靱で効率的かつ環境的に責任あるインフラを構築するために必要なツールと技術を提供します。

“

将来を見据えると、私たちが期待しているのは、モデリングの自動化や人工知能ソリューションといった機能を統合できるソリューションだけではありません。同じ CDE（共通データ環境）内で異なるソフトウェアを進化させ、統合することも求めています。これらすべての要件が統合され、私たちの仕事がより容易になることを願っています。

”

AECOM 社 交通プロジェクト リード/Sergio Alemany 氏



# デジタル ジャーニーの 次なるステップ

建築、エンジニアリング、建設、運用の各分野は、新しいインフラ需要の増加、より優れた持続可能性成果、そしてより体系的で標準化されたプロセスに牽引され、成長を続けています。業界はデジタル化の未来を受け入れ、データを最大限に活用する努力をしなければなりません。

オートデスクは、今日そして将来の交通インフラ プロジェクトに必要なものを理解しており、成功のためのワンストップ ソリューションを提供します。業界をリードするプラットフォーム、オープン スタンダード対応、そして主要パートナーシップの組み合わせにより、組織は交通分野が今後数年間に提示するあらゆるエキサイティングな機会を最大限に活用できるよう備えることができます。

もし組織を技術主導の未来へ進める準備ができているなら、オートデスク パートナーとのミーティングを予約し、目標



**私たちは皆、デジタル ジャーニーの途上にいると思います。すべてを一度に実現することは不可能です。しかし、誰もが動き出さなければなりませんし、実際に動いています。そうしなければ、本当に取り残されてしまいます。ですから、焦点を正しく定め、優先順位を正しく設定する必要があります。そして、それを戦略の一部として確実に実行する必要があります。**



Arcadis 社 鉄道・交通部門グローバル ディレクター/  
Bas Bollinger 氏

お問い合わせ



